

諏訪小だより

令和5年2月28日
3月号
多摩市立諏訪小学校
校長 齋藤 幸之介

語り継ぐこと、そして

校長 齋藤幸之介

先日実施をいたしました学習発表会には多数御参観を頂戴しましたことに感謝を申し上げます。コロナ禍での活動にはまだ制限がかかり、皆様の御要望には全てお応えすることができませんでしたが、各学年及び学級の1年間の集大成とも言える姿の一端をお示しできたのではないかと思います。今後共よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年度「諏訪小だより」3月号でも御紹介をしましたが、これからの3回に亘る全校朝会の内容をお伝えします。

東京大空襲

早乙女勝元著「東京大空襲」は、新書版のほか絵本としても発刊されています(1978年 理論社)。依頼をしておいた絵本が学校図書館スタッフの平家由美子から届き、改めて読んでみると、やはり胸がつぶれそうになりました。1945年3月10日未明に起きた空襲により、10万人を超える死者、さらに多くの負傷者が出ました。空襲時と共に、朝を迎えた東京の被害の様子はさらに悲惨なものとして伝わってきました。

この絵本の最後に「早乙女さんは、実娘の愛さんに、「おとうさんは、くりかえし、たった一人になろうとも、“炎の夜”に死んでいった人たちのことを、語り続けましょう」と述べています。

すでに多くの子供たちはウクライナでの惨状に関する情報を得ています。78年前の東京での悲劇と重ねながら、子供たちが改めて平和について考える場としたいと思います。

東日本大震災

平成23年3月と言えば、今の6年生がまだ1歳になっていませんでした。東日本大震災のあまりの衝撃的な映像が焼き付いています。時が進むにつれてこのことは薄れていってしまうのでしょうか。

本年度の1月の避難訓練は17日でした。この日は、阪神淡路大震災の日でした。思い返してみると、28年前の出来事は当時の人々に大きな恐怖を与えたでしょう。私の知人は子供と一緒に寝ており、たまたま二

人の両脇にタンスが倒れてきたので何とか助かった、と聞き、背筋が震えたのを覚えています。

調べてみると、ここ30年程の間に規模の大きい地震がわが国で何度も起こり、犠牲も払われています。先日も北海道釧路沖を震源とした地震が起こりました。私共も油断をしてはいられない、と思いますが、いかがでしょうか。

やはり世界を見れば、2月6日発生したトルコ・シリアでの大地震では、やはり多くの犠牲者が出ました。遠い地域での災害への支援のあり方を具体的に思い描けないことに自身の非力さを感じています。

新型コロナウイルス

2020年3月2日に始まった臨時休校は、その後延期も含めて3か月続きました。あれから3年が経ちました。大分取り戻してきたとは言え、まだ元の学校生活を保障できていません。子供たちには「申し訳ない」と「今は辛抱」とが入り混じった気持ちでいます。そして、だからこそ子供たちの姿に救われている、と有難く思っています。

今後は、新型コロナウイルス感染症対策本部が述べる「マスク着用の考え方の見直し等について」を踏まえながら、令和5年度からの具体的な対応を明らかにしていきたいと思います。同時に、まだ完全には解き明かされていないこのウイルスにどう関わっていくのかを考え続けたいと思います。

語り継ぐこと、そして「想像する」こと

それぞれを数分の間に子供たちに伝えていきます。私を受けて各学級担任がより具体的に話をしていきます。こうして語り継ぐこと、このことが学校現場に課せられた役割の一つと捉えています。

もう一つは、子供たちに「想像する」ことを促すことが重要かと思えます。「もしこのことが自分の身に起きたら」「もしこのような災害に巻き込まれたら」と問い、そして具体的な対応を子供たち一人一人が明らかにできるようにしていきたいと考えています。